平成 30 年度

第２回　近江八幡市まち・ひと・しごと創生懇話会

報告書

近江八幡市

目次

1. 概要　Ｐ1
2. 委員からの意見及び対応方針　Ｐ2
3. 講評　Ｐ6

参考資料

1. 設置要綱
2. 委員名簿
3. 事業シート
4. 議事録

1.概要

１．懇話会設置の趣旨

まち・ひと・しごと創生法（平成 26 年法律第 136 号）第 10 条第 1 項の規定に基づき策定した近江八幡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進に関して広く意見を聴くため。

２．日時：平成 31 年 3 月 18 日（月曜日）　13 時 00 分から 16 時 00 分

３．場所：近江八幡市水道事業所　Ａ・Ｂ会議室

４．対象事業（カッコ内は担当課であり、開催日時点の名称で表記）

事業シート№.1	東近江地域広域婚活事業	（政策推進課）
事業シート№.2	近江八幡０次予防シェアリングプラットフォーム形成事業	（健康推進課）
事業シート№.3	歴史的建造物（市立資料館）を活用した観光拠点整備による地域活性化事業計画	（文化観光課）
事業シート№.4	インバウンド観光プラットフォーム策定業務	（文化観光課）
事業シート№.5	着地型体験ツアープラットフォーム策定業務	（文化観光課）
事業シート№.6	駐車場案内・交通案内システム構築業務	（文化観光課）
事業シート№.7	観光消費額等調査業務	（文化観光課）
事業シート№.8	インバウンド観光サイン調査分析業務	（文化観光課）
事業シート№.9	「沖島・びわこ」教育旅行観光プログラム	（学校教育課）
事業シート№.10	空き町家リノベーション事業	（商工労政課）
事業シート№.11	八幡商人育成事業	（商工労政課）
事業シート№.12	先進的農業者づくり塾事業	（農業振興課）
事業シート№.13	未来づくりキャンパス事業	（政策推進課）
事業シート№.14	安寧のまちづくり（ＣＣＲＣ）推進事業	（政策推進課）

５．委員（敬称略・順不同）

秋村 田津夫（近江八幡商工会議所　会頭）
遠藤 良則　（近江八幡金融協議会／滋賀銀行八幡支店　支店長）
城念 久子　（近江八幡市安寧のまちづくりプロデュース委員会　委員／オレガノ代表）
白須 正　　（龍谷大学　政策学部　教授）※座長
土井 勉　　（大阪大学ＣＯデザインセンター　特任教授）
江南 仁一郎（近江八幡市　総合政策部長）

2.委員からの意見及び対応方針

各事業に対する委員からの主な意見及び助言と、それに対する担当課の対応方針（令和元年５月時点）

（1）　事業シート№.１　東近江地域広域婚活事業

担当課：政策推進課

委員の主な意見	意見に対する担当課の対応
プログラムの中で、地域を知る機会を設けてはどうか。	プログラム内で、グループ対抗のご当地クイズを出題し、地域を知る機会を提供しています。
プライバシーの問題などを背景に、世話役の活動が縮小しており、結婚が幸せなことだと伝える機会が減っている。成婚された過去の参加者をゲストに招くことで、その機会を設けてはどうか。	今年度の２市２町担当者会議にて、事業参加者向け事前講習会にて成婚者をゲストに招く機会を設けるかを検討します。
結婚に否定的な若者のイメージを解消し、結婚を希望する若者を増やす手法についても検討されたい。	事業参加者およびサポーター研修会において、現代の若者感を学ぶことや結婚に対する抵抗感を払拭するための内容を取り入れて運営しています。

（2）　事業シート№.２　近江八幡０次予防シェアリングプラットフォーム形成事業

担当課：健康推進課

委員の主な意見	意見に対する担当課の対応
ボランティアで活躍するサポーターを評価する仕組が必要である。	０次予防を推進するための事業の検討及び評価を、学識経験者を交えた0次予防推進協議会において年１回実施しています。更に、サポーターの評価をする仕組みとして、新たに実務者レベルでの専門部会を発足します。
地域密着のコンセプトを保ちつつ、全市的に利用が広がるよう、手法を検討されたい。	自治会長会、民生委員、児童委員、健康推進協議会など地域の組織への啓発に取り組みます。また、0次カフェで高齢者の手づくりの作品を販売するマルシェを開催することで利用者の拡大をめざします。

(3)　事業シート№3　歴史的建造物（市立資料館）を活用した観光拠点整備による地域活性化事業計画
担当課：文化観光課

委員の主な意見	意見に対する担当課の対応
目的を観光に限定せず、市民が地域に誇りを感じ、アイデンティティーを育むための施設としても利活用されたい。	着物の着付けや語学の教室等、市民向けの教養と自己研鑽の場としても施設を利用していただいています。
地域の各施設が連携し、周辺に新しい人の流れが生まれるよう工夫されたい。	かわらミュージアムとの共通入場券や、周辺の複数施設との割安共通入場券である「おもてなしパスポート」の販売などにより、周辺エリア一帯に人の流れが生まれるよう案内等を図っています。

(4)　事業シート№4　インバウンド観光プラットフォーム策定業務
事業シート№5　着地型体験ツアープラットフォーム策定業務
事業シート№6　駐車場案内・交通案内システム構築業務
事業シート№7　観光消費額等調査業務
事業シート№8　インバウンド観光サイン調査分析業務
担当課：文化観光課

委員の主な意見	意見に対する担当課の対応
「たびなびアプリ」については、観光に来ようと検討している人に見てもらえるものとなるよう工夫されたい。	平成31年３月に市観光パンフレットを刷新し、表紙にアプリのダウンロードを促す内容を新たに掲載しました。当市への観光を検討される方への送付、観光キャンペーン等に活用しアプリの周知を図っています。
５つの事業の相互関係や、資料館等を含めた市内の観光施策をトータルで考え、事業を整理して進められたい。	相乗効果が得られる事業を検討し推進します。一例としてインバウンド観光サイン調査により得られた適正な観光案内サイン、誘導ルートを分析し、駐車場案内・交通案内システムへ反映を行っています。

(5)　事業シート№9　「沖島・びわこ」教育旅行観光プログラム
担当課：学校教育課

委員の主な意見	意見に対する担当課の対応
市としてのプログラムを作り上げることで成果を残すことができる。市としてノウハウを蓄積し、ツアー化に向けて取り組まれたい。	成果報告書をもとに、学習の成果として結果を残せるよう、さらに検討します。
プログラムに「学習」要素をしっかりと組み入れて取り組まれたい。	沖島の文化や歴史を中心に学ぶ「学習プログラム」として活用できるよう検討します。

(6)　事業シート№10　空き町家リノベーション事業

担当課：商工労政課

委員の主な意見	意見に対する担当課の対応
リノベーション済み物件（旧吉田邸）については、その活用についてＫＰＩを設定して取り組まれたい。	リノベーションとしては終了しているが、今後の活用についてＫＰＩの設定を行います。

(7)　事業シート№11　八幡商人育成事業

担当課：商工労政課

委員の主な意見	意見に対する担当課の対応
八幡商人のどのような要素を取り入れるのか、特色付けを考えて取り組まれたい。	商工会議所や商工会の創業塾を支援し、地域との密着した起業家輩出に取組みます。
受講者から講座の評価を聞くことで、次に活かされたい。	受講者アンケートは実施しているので内容を精査しながら実施します。

(8)　事業シート№12　先進的農業者づくり塾事業

担当課：農業振興課

委員の主な意見	意見に対する担当課の対応
どのような周知方法が、今年度の若者の参加に繋がったのかについて検証を行い、今後の塾生募集に活かされたい。	周知方法は前年と同様としますが、関係団体への周知の際は若者への参加を重点的に呼びかけるとともに、若者が参加したくなるよう講義内容の充実に努めます。
就農希望者には自身のライフスタイルを変えたいと望まれている方も多いので、収入面での訴求だけでなく、近江八幡市の魅力や、農（収穫）の喜びに訴えた発信を心掛けられたい。	農業が魅力ある産業であることを伝えるため、様々な面から情報発信に努めます。

(9)　事業シート№13　未来づくりキャンパス事業

担当課：政策推進課

委員の主な意見	意見に対する担当課の対応
課題を見付けるだけでなく、受講生の長所や想いを発見し、伸ばしていく観点を取り入れられたい。	地域課題に対して受講生のどんな強みが活かせるのかを明確にし、サポートする側と共有する機会を設けます。
他の分野との横の連携を大切にして取組を広げられたい。	塾生募集やプログラム内容について、他の人材育成事業との連携・情報共有を行います。また、サポート体制構築についても庁内の横連携を意識して進めます。

（10） 事業シート№14　安寧のまちづくり（ＣＣＲＣ）推進事業

担当課：政策推進課

委員の主な意見	意見に対する担当課の対応
計画の理念に合致する人を呼び込むことが重要である。地域で活躍することを望み、それを喜びに感じることのできる人が集まる仕組を検討されたい。	入居者の募集については、まちのコンセプトに合致する人が集まるようなPRの手法等を検討しながら進めます。
米国で生まれた元来のＣＣＲＣの理念（＝高齢者の終の棲家）とは一線を画す計画であり、考え方を整理する必要がある。多世代のまちづくりをめざし、ＣＣＲＣの定義に拘らず、近江八幡市の特色を活かした『安寧のまちづくり』として進めら	近江八幡市版CCRCとして本市独自のスタイルで取り組んでいるものであり、引き続き特色を活かしたまちづくりプロジェクトとして進めます。
地域との調整・連携が必要である。 地域の心配事を取り除き、受入態勢を整えるためにも地域の意見を聞きながら進められたい。	これまでも、地元住民に対しWSへの参加やWGの傍聴参加への呼びかけ等を行い、地域密着型で意見などを聞きながら慎重に進めてきました。今後も地域との調整や連携を行いながら、皆が求めるまちづくりを進めます。
コンパクトで歩きやすいまちをめざすために、公共交通整備の観点を取り入れられたい。	最期まで住み続けられるまちをコンセプトとして考えていることから、公共交通整備は必要と考えており、関係課とも随時協議検討しながら進めます。

3.講評

平成 31 年 3 月 18 日に、平成 30 年度第 2 回目の近江八幡市まち・ひと・しごと創生懇話会が開催された。

本会議は、「近江八幡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づく施策の推進に関して広く意見を聴くために設置されている。施策推進のための事業をより効果的に進めるためには、事後の評価・検証だけでなく、事業の実施にあたっても懇話会で意見を聞くことが必要であるということから、既に平成 30 年 7 月 25 日に、今年度の事業内容、事業の進め方などについて説明を受け、委員から意見、助言が述べられている。

今回は、7 月の懇話会での議論を踏まえて今年度取り組んだ、①地方創生推進交付金の対象である 12 事業、②地方創生拠点整備交付金の対象である 1 事業、そして③県自治振興交付金の対象である 1 事業、合わせて 14 事業について、担当部署から事業シートと付属資料に基づき、要点を整理した説明を受けた後に、質疑応答、意見交換を行ったもので、参加委員から数多くの質問、指摘、意見が出された。

事業シート№1「東近江地域広域婚活事業」については、当初は、行政がこのような事業を行うことの意義も問題となったが、少額の予算であるにもかかわらず、参加者からも好評で、成婚等の成果が上がっていることは評価できる。今後は、会場に地域とつながりのある場所を選ぶことなど検討するとともに、働き方を見直す機会につなげるなど、更なる工夫を期待する。

事業シート№2「近江八幡 0 次予防シェアリングプラットフォーム形成事業」は、ボランティアが積極的に運営に関わっていることは高く評価できる。高齢者の外出を促すことが重要で、カフェの果たす役割が重要だが、まだ参加者が少なく、人が集まる雰囲気作りが大切で、引き続き内容の充実に努められたい。

事業シート№3「歴史的建造物（市立資料館）を活用した観光拠点整備による地域活性化事業計画」は、現時点では人を惹きつける施設になり得ておらず、周辺に新しい人の流れをつくるには至っていない。市民が近江八幡の歴史や文化を学ぶことができる施設になることが、観光拠点としての魅力にもつながるので、これを踏まえて事業を推進されたい。

事業シート№4 から№8 は、広域観光ブランディング推進事業に関することで、相互の連携を密にしながら進めていくものであり、全体を通した議論を進めた。この取組は、5 つの事業を総合的に進めていく必要があるが、適材が確保できなかったということで DMO を立ち上げることができず、5 事業のうち 3 事業に取り組むことができなかったのは当初計画が甘かったといえる。いい人材が確保できない中で、無理をして立ち上げずに今年度見送ったのは適切ともいえるが、DMO の核となる近江八幡観光物産協会の構成や事業を考えることが必要である。観光で重要なのは、観光消費額の地域内循環で、都市経営戦略として観光を位置づけ、事業シート№6 の「駐車場案内・交通システム構築業務」についても、観光に来た人だけでなく、観光に来ようと検討している人にも見てもらえることが大切。DMO の設立が間に合わなかったことを一つの契機ととらえ、よく事業を整理して進めていく必要がある。

事業シート№9「沖島・びわこ」教育旅行観光プログラムは、児童交換会の事後アンケートなどもきっちりと取られており、その結果を今後のプログラムに活かして欲しい。滋賀県立大学だけではなく、市としてもノウハウを蓄積していくことが大切である。

事業シート№10「空き町家リノベーション事業」は、施設の整備が終了した。チャレンジショップやまちなかゼミでの活用も大切であるが、空き家問題は想像以上に深刻で、まち全体で空き家を増やさないための対策がより重要である。市が音頭を取り、都市計画の視点から、エリア全体のまちづくりを考えていくことが求められる。

事業シート№11「八幡商人育成事業」については、きめ細かい取組をしているにもかかわらず、今年度の起業は成果が上がっていない。ただ、現在の仕事のステップアップなどに役立っているとしたら役割を果たしているといえる。受講者のアフターフォローが大切である。

事業シート№12「先進的農業者づくり塾事業」については、12 名の受講者で若手の参加者もあり、農家レストランの経営や 6 次産業化のノウハウ、集落営農組合の新しい取組を模索するなど意欲ある受講者が多かったのは評価できる。次のステップが大切で、アフターケアが必要。就農インターンシップ制度は、折角の取組であるにもかかわらず参加者がゼロではもったいなく、内容や訴え方を工夫すべき。

事業シート№13「未来づくりキャンパス事業」は、参加者の評判もよく、意義のある取組だったと評価できる。高校生のプレゼンテーション資料のレベルも高く、こうした若者の参加は将来の人口定着にもつながる。OB 会のような組織が修了生の間で自主的に生まれるなどして、活動が継続していくことが重要である。

事業シート№14「安寧のまちづくり（CCRC）推進事業」は、CCRC をどのように受け止めるかを考えるべき。米国で生まれた「高齢の富裕層が余生を過ごす」ということではなく、多世代が住む「安寧のまちづくり」を考えるべき。そうすると、車移動を前提としたまちづくりではなく、公共交通を整備し、コンパクトで歩きやすいまちを目指すことが重要。まちづくりの理念を理解し、都市部から来て地域で活躍することを希望し、そのことに喜びを感じる人に来てもらうことが大切。そのためにも、地域との連携、調整も必要である。

以上、各事業に対する委員会の指摘や意見を簡潔に整理したが、各委員から多くの意見、指摘が出されるとともに、行政からも内容や考え方について説明が行われ、施策の推進に向けた内容のある議論が交わされた。

最後に、事業全体を通じて、委員から次のような意見が出された。

・人材育成については、具体的な事業が多くあった半面、プラットフォームを構築するような事業は中身が十分練れていないものが多いという印象であった。地方創生の考え方からすると、人の育成に力を注ぐことが長期的な財産になるのではないか。
・人口減少の中で、近江八幡市内のアクティビティをどう活性化させていくかということを打ち出すことが大切。
・情報交換等を通じ、事業間がつながっていけばよりよい事業となる。
・観光については、人材の確保など課題も多いが、よい方向に向かうことを期待している。
・もっと市民を取り込んで、官民連携を進めていくことが必要である。

・活動をしている団体や人を評価するという仕組みも必要である。
・総合計画とも方向を合わせ、市民を巻き込みながら地方創生を進めてもらいたい。

（総括）

既にハードの施設整備が修了した事業も見られるなど、本年７月の懇話会で出された意見等も踏まえ、全体として「近江八幡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の推進に着実に取組まれている。

ただ、広域観光ブランディング推進事業は、必要な人材が確保できなかったこともあり、今年度、いくつかの事業が未着手であった。また、個別事業に関しては、これまでから指摘されていた課題の解決ができておらず、必ずしも十分な成果をあげられていないものも見られた。

今後、事業を推進するにあたっては、事業の成果を高めるためにより一層の工夫を期待するとともに、施設整備が終了した事業に関しては、その成果を最大限活用するためにも、ソフト面の充実に努めることが大切である。

最後に、毎回指摘されていることであるが、掲げられた事業は相互に関係するものも多く、庁内間の横連携はもちろん、関係組織、団体とも連携、協力することで、効果的な事業の推進を図ることが重要である。

近江八幡市まち・ひと・しごと創生懇話会座長　白須 正